

令和5年度9月期古賀市社会教育委員の会議 議事録

- 【 会議名称 】 令和5年度9月期古賀市社会教育委員の会議
- 【 日 時 】 令和5年9月21日（木） 18時30分～20時00分
- 【 場 所 】 リーバスプラザこが交流館 103洋室
- 【 主な議題 】 第3次古賀市生涯学習基本計画策定
- 【 出席委員 】 井浦議長、角森副議長、村山委員、橋爪委員、砥上委員、倉掛委員、石川委員、丸井委員、山本委員（以上委員9名）
- 【 事務局 】 教育部長、生涯学習推進課長、村上参事補佐、平川、田原
- 【 傍聴者数 】 0名

【 配布資料 】

- ・ レジюме
- ・ リーパスプラザこがリニューアル基本計画（案）
- ・ 資料1 第2章2. 古賀市が目指す生涯学習
第3章 生涯学習を実現するための目標と方策

【次第】

1. 開会あいさつ
2. 協議事項
 - (1) リーパスプラザこがリニューアル基本計画（案）
 - (2) 生涯学習基本計画策定
 - ・第2章2. 古賀市がめざす生涯学習
 - ・第2章3. 生涯学習に必要な視点
 - ・第3章 生涯学習を実現するための目標と方策
3. その他
 - (1) 各委員から
 - (2) 事務局から
 - ・リーパスプラザこがリニューアルに伴うシンポジウム
令和5年9月24日（日）13時～15時30分
 - ・福岡ブロック社会教育委員研修会 令和5年10月13日
 - ・九州ブロック社会教育委員研修会 令和5年11月9～10日
 - ・市長・教育委員会との意見交換会について
日 時：令和5年12月19日（火）15時～
場 所：市役所
テーマ：「放課後の子どもの過ごし方について」（案）
（前回テーマ：コロナ後の地域活動の進め方について
PTCA活動、部活動、通学合宿など）
 - (3) 次回開催日程決め
4. おわりの言葉

【 会議内容 】

1. 開会あいさつ

2. 協議事項

(1) リーパスプラザこがリニューアル基本計画 (案)

(事務局)

資料の説明

(2) 生涯学習基本計画策定について

資料 1

～第 2 章 2. 【古賀市が目指す生涯学習】～

(井浦議長)

前回の分を思い出しながら、お気づきの点、感想をお聞かせいただければと思う。

(砥上委員)

イメージ図について、後ろに草がたくさんあるのは、色々な個の学びを支えるというイメージだろうか。

(事務局)

学びのサイクルが他にもたくさんあるイメージ。

(橋爪委員)

黄色の輪は何を表しているか。

(事務局)

元々クローバーは真ん中にうっすら輪がある。中心が 1 つの丸に見えてサイクルとして繋がっているというのを見てもらえたらと思う。

(角森副議長)

いっぱいクローバーがあるという思いはわかるが、ぱっと見た時に、せっかくの大きいクロ

ーバーが目立たなくなったと思う。

(事務局)

現在は、イメージで作っていて、最終的には、プロのデザインになる。今いただいたご意見を正式なデザインに取り入れていく。

(丸井委員)

タッチもまとまる感じで、色味ももう少し明るいほうがいい。

(事務局)

副議長の意見に対して、背景のクローバーの背がもう少し低かったらどうだろうか。

(副議長)

背景のクローバーの背が前の葉に重ならないほうがいい。

(砥上委員)

タッチも変わるか。

(事務局)

もう少し全体的に柔らかな感じになる。

(村山委員)

クローバーの茎が細いなという印象で、支えるところも少し盛り上がっていたり、茎がぐっと太くなっていたり、その表現をもう少し工夫されるといい。そうするとまたイメージが違うと思う。

(砥上委員)

葉の間が広いからくっついていてもいいと思う。

～第2章 3.【生涯学習に必要な視点】～

(井浦議長)

前回会議より、「仕掛け」という言葉を「支援」に書き換えている。

～第3章 生涯学習を実現するための目標と方策～

◇自発性「いつでも始められる生涯学習・社会教育」

(石川委員)

公民館の分館はこの計画とは関係ないのだろうか。同じ生涯学習の中に入っているのか、それとも別なのか。

(事務局)

これが古賀市の生涯学習基本計画といって、市がする全体的な計画になる。のちほど「つながり深まる生涯学習・社会教育」のところでもまた公民館の分館のことは出てくる。

(村山委員)

②リーバスカレッジを中心とした学びのきっかけづくりのところで、私自身も参加して皆さんの様子も見ていますが、最終的に、個人が楽しい、面白かった、安いお金でこんなことが楽しめたという満足感で終わってしまったのは、リーバスカレッジでやっている意味は半減するような感じがする。そして、また同じようなことの繰り返しになってしまうのではないかという不安を感じている。繋がり深まるというところでどのように関わらせていくかということが、市として行う事業としては大事だと思う。きっかけ作りにはなると思うが、その後どうするかをしっかりと目標を定めてやるように考えていく必要がある。

(井浦議長)

このきっかけ作り、新たな1歩をサポートしていきますという文言だけではなく、そこにプラスするようなことも考えられるだろうか。

(村山委員)

ここで繋いでいかないといけないと思う。この考え方からすると、個人が非常に楽しかったということで終わってはいけないと思う。そうしないと、結局は、個人の楽しみで終わってしまうので、しかし、やはり多くの方が、面白かった、よかった、またしてみたいということで終わってしまうような状況はたくさん出てくると思う。

(井浦議長)

次の「つながり深まる生涯学習・社会教育」、「自分を高める生涯学習・社会教育」のところに繋いでいかないといけない。

(村山委員)

はい。どういう風に繋いでいったら、ここできっかけを得た方々がさらに高まっていかれるかなと思う。

(井浦議長)

ここできっかけ作りのところをサポートしていきますという文章だけで終わらせるのか。例えば、サポートし個人の成長につなげていきますと文章を加えれば次に繋がっていくと思う。

(倉掛委員)

学んだ後は、インプットした後にアウトプットの場があったほうが良いと思う。私は地域学校共同活動の推進をしているが、学校の現場でお手伝いとして活かせるようなことができたらいと思う。

(砥上委員)

生活科の授業で民生委員にサポーターとして見てもらえないかと思って進めている。

(倉掛委員)

学校だけでなく、幼稚園や保育園でお手伝いができるような活動を案内して、学んだことをぐるぐる循環させていけたらいい。学ぶことが楽しいという方もいると思うが、中には何かに活かして役に立ちたいという方もいる。

(砥上委員)

自発性でいうところで、お二人が言ったことはとても大事なことで、それがおそらく、次のページで繋がりが深まって、自己実現に当たると思う。この中でそこまで説明をしなくてもいいのではないかな。

◇つながり「つながり深まる生涯学習・社会教育」

(丸井委員)

①の4行目で「団体や活動を相互に理解してもらおうように働きかける」なのか。活動を一緒にうまくやっていくようなイメージではないのか。

(事務局)

ここは少し言い方を考えたい。

(倉掛委員)

①の委託事業、共同事業の見直し強化、産学官連携の強化や②の PTA 補助金というのは、具体的に行われていることを挙げていただきたい。

(事務局)

1番大きいのが文化協会やスポーツ協会と一緒に行うイベント。特にスポーツ振興係はスポーツ協会と大会やイベントをたくさんしている。産学官連携強化のところは、熱中症対策の講座や性教育やキッズマネーの講座などで外部から先生を呼んでおり、そうやって連携を深めていきたい。

(角森副議長)

市民の方が自発的に何かをしようとしたときに、つながりの場やきっかけを作る必要がある。自発性のところにつながりの内容も入れたほうがいいのではないか。

(井浦議長)

村山委員のお話を活かしていくとすれば、②さまざまな主体による連携・共同の推進のところに入ってくると思う。1行目の終わりの文章の個人のところが、先ほどのきっかけのところだと思う。

(村山委員)

リーパスカレッジの際に職員が先生の活動の紹介など関心がある方が次につながるように声掛けはしている。しかしながら、それだけでは広がらないと思いながら私は見ている。やはりそこから次にステップを上げるような手立てを何かやっておかないと、個人の満足で終わると思う。次につながるような仕掛けを考えていく必要があるのではないか。

(事務局)

大切なご意見だが、文章にするのはなかなか難しい。こちらは共同の推進という大きなテーマなので、先ほどの個別のご意見まで含めて、文章を考えさせていただきたい。場合によっては、計画に盛り込むのが難しい場合でも、個々の計画の方には必ず盛り込んでいきたいと思う。

(角森副議長)

社会教育委員の活動としたら、少し責任が重くなくなると感じる。

(事務局)

こちらは文言を変えたいと思う。

(井浦議長)

③3行目の文章は、「生涯学習・社会教育への理解が深まり、現状を正しく知ることができ

る」なのか。現状を正しく知ること、理解が深まるのだと私は思った。

◇自己実現「自分を高める生涯学習・社会教育」

(橋爪委員)

①の内容は、自分を高めるに繋がらない。②の学び直しは確かにそうだが、③④もそう。「人材育成の支援を行っていき、長期継続できる組織づくりをめざしていきます」というのは、自分を高めるに繋がらないと思う。

(井浦議長)

①を持っていく場所ですね。

(橋爪委員)

「みんなで支える生涯学習・社会教育」のほうだと思う。

(事務局)

では、「みんなで支える生涯学習・社会教育」の方で一旦作ってみて、次回、皆さんに見ていただくようにしたいと思う。

(倉掛委員)

②の内容がよくわからない。事業所に施設を使ってほしいということだろうか。

(橋爪委員)

事業所だけに限定されてしまうから事業所という言葉は削った方がいいのではないか。

(倉掛委員)

②は何を想定しているか。

(砥上委員)

指導者や、組織自体のスキルアップという意味だから、意欲とは違うのではないか。

(事務局)

こちらも文言を考えさせていただきたい。

◇支援「みんなで支える生涯学習・社会教育」

(橋爪委員)

ここが1番難しいと思っていて、この①②③が果たしてみんなで支えると言えるのか。他のところにもやはり、支援、推進という言葉がたくさん出てくるから、どうしてもこの生涯学習施設の機能拡充や発展の推進の内容になる。①②は当てはまると思うが、果たしてこの①②③だけでみんなを支えるというのは伝わらないのではないか。この3つに何かを付け加えるかどうか考えたほうがいいのではないか。

(村山委員)

最初の図で例えると、「支える」のところがみんなで支える生涯学習・社会教育になる。そこが土だとしたら、土を作ったり、肥料をあげたりすることで大きな野菜が育つ。実際、私たちは野菜じゃないから色々やはり人の手がいる。人の部分が入ってないのではないか。

(倉掛委員)

とても分かりやすかったが、土に例えると社会全体で、みんなで支えるということになると思う。学校に全ての学びを求めるのではなくて、社会全体でいろいろな世代の学びを支えましょうと言っているので、やはり、子供、高齢者、障害者と全世代を対象に考えないといけない。そんな基本計画であってほしいと思う。

(井浦議長)

施設と人というキーワードが出ている。

(事務局)

いただいた意見を含めて文言を考えたいと思う。

(山本委員)

高齢者の方はなかなか中央公民館など大きな施設に行けないという意見があったので、地域の分館というところも含めて、やはり公民館は大事ではないか。

(事務局)

「みんなで支える生涯学習・社会教育」は生涯学習基本計画をどのように叶えていくか意気込みを語る場所であった方がいいと思う。先ほど、人という言葉が出てこないというご指摘を得て、やはり、ここで、人を育て、人を支える。どのようなスタンスで古賀市は生涯学習に関与し、働きかけていくのかというところが要となる。働きかける場が、地域公民館であり、働きかける対象が人であるというところがはっきりわかるように整理して、採用させていただきたい。

(事務局)

中身については、再提案していただきますので、よろしくお願いたします。
協議事項については以上です。

3. その他

(1) 各委員から

(橋爪委員)

10月が、古賀市民スポーツ月間になっている。親子スポーツ教室、市民スポーツ研修会、市民ウォーキング、市民健康スポーツの日、バレーボール、スロージョギング、パラスポーツ体験、そしてリレー、マラソンとイベントがたくさんある。スポーツ協会のホームページに詳しく載っておりますので、ホームページに興味のある方は見ていただきたい。

(井浦議長)

社協情報に依頼が来たので、笑顔のつどいを書かせていただいている。今まで発表した分をまとめた形で、全国版になっている。発表情報は、注文が来ると思うのでよろしくお願いたします。

(2) 事務局から

(1) 事務局から

- ・リーパスプラザこがリニューアルに伴うシンポジウム
令和5年9月24日(日) 13時～15時30分
- ・福岡ブロック社会教育委員研修会 令和5年10月13日
- ・九州ブロック社会教育委員研修会 令和5年11月9～10日
- ・市長・教育委員会との意見交換会について
日 時：令和5年12月19日(火) 15時～
場 所：市役所
テーマ：「放課後の子どもの過ごし方について」(案)
(前回テーマ：コロナ後の地域活動の進め方について
PTCA活動、部活動、通学合宿など)

(3) 次回開催日程

10月 24日(火) 18:30 ～ 会場: 103

5. おわりの言葉

笑顔のつどいので、前日から当日表に立ってくださった方、ありがとうございました。
先日、私は熱中症になったのですが、看護師として勉強になった。看護師さんが自分の業務を達成するために、患者さんに何回も同じこと聞いてこられた。だから、生活の中で、私も目標達成のために自分の言いたいことばかり言っていると思って反省した。やはり相手の状況を見て、物事を自分が達成しないといけないことでも変えていかないといけないと思った。また、熱中症予防には水分が必要。昔、畑仕事をしていたら、塩とスイカを持って3時のおやつに行っていた。では、お疲れ様でした。ありがとうございます。